

第6学年 道徳科学習指導案

平成29年10月24日(火) 第5校時

- 1 主題名 偏見、差別を許さない態度 内容項目 [C 公正、公平、社会正義]
- 2 ねらい 身近な偏見や差別に立ち向かっていく難しさや大切さについて理解し、正義の実現に向けて努力しようとする態度を養う。
教材名 「あなたも同じ…」(出典：彩の国の道徳「夢にむかって」埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、第5学年及び第6学年内容項目[公正、公平、社会正義]の「誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること」をねらいとしている。これは、第1学年及び第2学年内容項目[公正、公平、社会正義]「自分の好き嫌いにとらわれないで接すること」と、第3学年及び第4学年内容項目[公正、公平、社会正義]の「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること」を受けたものである。そして、中学校内容項目[公正、公平、社会正義]「正義と公平さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」へ発展していく。

公正、公平に人々に接することのできる態度は、全ての人が確かな自己実現を図り、幸せに生きる社会を形成する上で必要不可欠である。公正、公平に生活するには、私心にとらわれず誰に対しても分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることが大切である。

しかし、人間は、自分と異なる考え方や感じ方、多数ではない立場や意見に対して、偏った見方や接し方をしてしまう弱さをもっている。いじめも、このような人間的な弱さが起因している場合が少なくない。そのような人間的な弱さを乗り越えて、自らが正義を愛する心を育むようにすることが必要である。その上で、他者に対する思いやりの心や、生命のかけがえのなさへの自覚などを基盤として、自他の不公正を許さない断固とした姿勢をもち、集団や社会の一員として力を合わせて積極的に差別や偏見をなくし、正義を実現しようとする努力をすることが大切である。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級では、4月当初の学級活動において、担任として、いじめやそれにつながる言動は絶対に許さないということを話した。5月には、国語科で、人権をテーマにした作文を書いた。人権とは何かを簡単に指導した後、人権が尊重されたことや侵害されたことなどについて、児童は思い思いに書いていた。日常生活においては、特定の人に対して強い言い方をしたり、何かを押し付けたりすることも差別であることを指導している。席替えでは、互いを理解し合い誰とでも分け隔てなく仲を深められるよう、教師が意図的に様々な児童同士が交われる工夫をして座席を決めている。さらに、本学級には、身体的な理由により体育等で激しい運動ができない児童がいるため、一人一人が抱えている違いや事情を認め合い、それによって差別することなく、それぞれの友達に対応した接し方をすべきであることも指導した。そうした指導により、男女仲良く生活し、互いを理解し合い違いを受け入れながら接することが徐々にできるようになってきた。

一方で、大分なくなってきたものの、前学年から続く特定の児童に対する偏見や陰口が時折見られることがある。学級会の話合いでも、特定の児童が発する意見に対して過剰に批判するなど公正、公平に話し合うことができないことがあった。また、数名の児童に対するいたづらや嫌がらせも1学期に起こっている。これは、その児童に対する何らかの偏った見方や思いがあることに起因している。こうした状況を踏まえ、2学期の初めに、公正、公平に関わるアンケートを実施した。結果は以下のとおりである。

ったりすると回答している。正義感は全ての児童にあるものの、その正義を貫くことの難しさも感じている児童がいるということが分かる。

以上の点を踏まえ、本時では公正、公平、社会正義についての考えを「深化」させることを意図して授業を行う。私心にとらわれず、いつでも誰にでも分け隔てなく接することの難しさとともに、どうしたら人間的な弱さを乗り越えて、誰にでも公正、公平に接することができるのか、多面的・多角的に考えさせたい。そして、差別や偏見、不正を許さず正義を実現しようとする態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、いじめられている明奈に対して最初は進んで声をかけていたものの、自分のものが隠されたことをきっかけに声をかけることをやめてしまった主人公が、明奈に、「あなたもいじめている友達と同じ」と言われたことで思い直し、クラスみんなに明奈のいじめについての自分の思いを伝えるという内容である。

高学年になると、排他的で固定的な仲間関係が築かれる中で上下関係も形成され、友達に同調し、本来もっている自分の考えや思いの通りに行動できないことが出てくる。この教材は、このような高学年の特徴を捉え、クラスの中で日常的に起こりうるいじめを題材にしたものであり、児童は、自分の事として共感しながら公正、公平な態度をとる難しさや大切さについて考えやすい内容となっている。

そこで、本教材から児童に考えさせたい視点を以下の4つとする。

① <「私」は、明奈に対して進んで声をかけていたのに、明菜のもとに行かなくなってしまった理由>

ここでは、明奈に対する思いやりの気持ちや、いじめは良くないという気持ちをもちながらも、自分がいじめの被害者になってしまった時の思いや、明奈に対して後ろめたさを感じながらも明奈のところには行かなくなってしまった時の考えに共感させ、相手への思いやりや不正を許さない気持ちよりも自分の立場を優先してしまう人間の弱さについて考えさせる。

② <どうして明奈から「あなたも同じ」という見方をされてしまったのか>

ここでは、始めは進んで声をかけていた「私」が、どうして「あなたも同じ」と言われてしまったのかを「明奈」の立場に立って多面的に考える。そして、いじめの傍観者も加害者と同じであるということについて考えを深める。

③ <「あなたも同じ」と言われて、「私」は何を考えたのか>

ここでは、いじめを憎む気持ちや正義感だけでなく、「そう簡単に自分の思いを伝えられるものだろうか」と揺さぶりをかけ、多面的・多角的に追求し話し合い、いじめをとめようと行動することはそう簡単ではないことも、自分との関わりで十分に考えさせる。

④ <また自分もいじめられてしまうかもしれないのに、どうしてみんなに自分の思いを伝えられたのか>

ここでは、「私」がどうして自分の思いを伝えられたのかを考えることを通して、正義を貫く難しさ乗り越えて差別のない集団をつくらうとする意志をもち行動するためにはどんな心や考え方が必要なのかについて考えを深めたい。

以上の視点を基に考え話し合わせることで、人間的な弱さを乗り越えて、相手の立場に立った思いやりを基盤として、誰にでも分け隔てなく、公正、公平に接することの大切さについての理解を深めたい。そして、差別やいじめを許さない姿勢や言動をとらうとする態度を養いたい。

(4) 次時とのつながり

本時は、「差別をなくすためには」というテーマで行う2時間扱いの学習の1時間目である。2時間の学習の概要は以下の通りである。

| | 第1時 (本時) | 第2時 |
|---------|---|--|
| 共通テーマ | 「差別をなくすためには・・・」 | |
| 教材名 | 「あなたも同じ・・・」 (彩の国の道徳「夢にむかって」) | 「どれい解放の父・リンカーン」 |
| 主題名とねらい | 主題名：「偏見・差別を許さない態度」 ねらい：身近な偏見や差別に立ち向かっていく難しさと大切さについて理解し、正義の実現に向けて努力しようとする態度を養う。 | 主題名：「差別を許さない」 ねらい：誰に対しても人権を尊重し、公正、公平に接し、差別のない社会を実現しようとする態度を育てる。 |

第1時(本時)では、身近に起こりうる差別や偏見、いじめの問題を自分との関わりで考えさせる。

そして、第2時では、視野を広げて社会や歴史に目を向け、リンカーンがどのような思いで奴隷解放を訴えたのかを考えることを通して、人権を尊重し、差別や偏見を許さないことや正義を実現することの大切さについて考えさせたい。

以上の2時間構想の学習を通して、相手や人々の立場、人権を尊重し、偏見や差別を見逃さない、許さない強い意志と正義を実現しようとする態度を育てていきたい。

4 研修課題との関わり

| | |
|--------|--|
| 学校研修課題 | 自ら学び ともに高め合おうとする児童の育成 ～学び合い学習をとおり豊かな心を育む～ 【集団の学び・個の学び】 |
|--------|--|

<道徳科におけるめざす児童像>

- 道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ高めようとする児童
- 多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めようとする児童
- 道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育み、よりよく生きようとする児童

<手立て>

- 2単位時間にわたるつながりのある指導

2単位時間共通のテーマとして「差別をなくすためには・・・」と設定する。

第1時(本時)では、身近に起こりうる差別や偏見、いじめの問題を自分との関わりで考えさせる。そして第2時では、人権を尊重し、差別や偏見を許さないことや正義を実現することの大切さについて考えさせる。2単位時間にわたるテーマ性をもたせた授業を展開することで、相手や人々の立場、人権を尊重し、偏見や差別を見逃さない、許さないことの難しさについて考えるとともに、それを乗り越え、人間として偏見や差別を許さない強い意志と正義を実現しようとする態度を育てていきたい。

- 多面的・多角的に考える発問や話合いの工夫

いじめの加害者、被害者の両方の立場で考えることで、公正、公平に行動しようとする難しさや、いじめの傍観者もいじめをしているのと同じであることなどについて多面的に考えを広げる。そして、いじめを止めて正義を貫こうとする大切さについて、4人組での話合いを取り入れたり、補助発問で「そう簡単に自分の思いを伝えられるものだろうか」と揺さぶりをかけたりしながら自分との関わりで多面的・多角的に考えられるようにし理解を深める。

○学習課題とテーマ発問の設定

児童の問題意識を大切にしながら主体的に話し合いを行うために、教材提示後に児童の疑問から学習課題を作る。そして、テーマ発問（中心発問）として「どうして『私』は、みんなに自分の思いを伝えられたのでしょうか」と設定する。それを通して、公正、公平に行動し、正義を貫こうとする難しさとともに、それを乗り越えるにはどんな心や考え方が必要になるのかを問題解決的に追求していく。

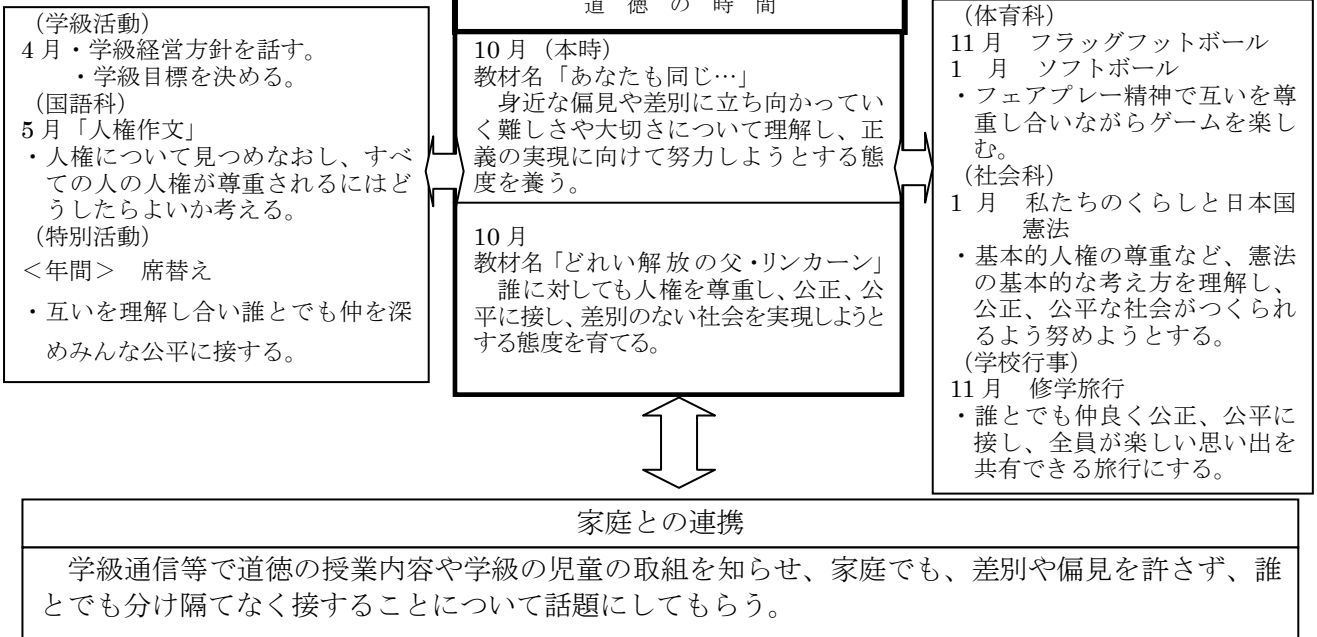
5 学習指導過程

| 段階 | 学習活動・主な発問 | ・予想される児童の反応 | ・指導上の留意点 ◇評価（評価方法） | 時間 |
|--------|---|--|--|----|
| 導 入 | 1 「差別」という言葉から何をイメージするか考える。 | | ・「差別」という言葉から、いじめや身分上の差別等を想起させ、そのような差別の問題がなくなるためには、どうしたらよいかという問題意識をもつ。 | 4 |
| | 2時間を通しての学習テーマ「差別をなくすためには・・・」 | | | |
| 展 開 | 2 教材「あなたも同じ…」の条件・状況を知り、読み聞かせを聞く。 | 登場人物：主人公「私」、明奈、郁美たち 条件・状況：明奈が郁美たちに物を隠したり、悪口を言ったりしていじめている。そのいじめの輪は広がろうとしている。それでも、私は、明奈に進んで声をかけていた。 | ・児童の感想をもとに学習課題を立て、問題意識をもたせる。 | 5 |
| | 本時の学習課題 どうして「私」は、みんなに自分の思いを伝えられたのでしょうか。 | | ・自分だったら、みんなに自分の思いを伝えることはできない。 | |
| 展 開 | 3 「私」の心の中を中心に、誰にでも公正、公平に接し、正義を実現する難しさや大切さについて話し合う。 (1)「私」は、明奈に対して進んで声をかけていたのに、明菜のもとに行かなくなってしまうのはどうしてですか。 | ・私もいじめられてしまうから。 ・私へのいじめがひどくなってしまうから。 ・明奈に声をかけたいけれど、また私のものが隠されるのは嫌だから。 ・悔しいけど、郁美たちには逆らえないから。 | ・自分がいじめの被害者になると、自己保身をして周囲に流され、いじめの傍観者になってしまう人間の弱さに十分に共感させる。 ・心の天秤を利用して、明奈へのいじめを何とかしようとする気持ちと、何もしないで周囲に流されてしまう気持ちとで揺れる心の内を視覚化する。 ・明菜のもとへ行かなくなりましたが、明奈を心配する気持ちは残っていることも押さえておく。 意図：公正、公平に行動したいと思っても、自分に害が及ぶと、周囲に流され公平、公正な態度を貫けなくなってしまう人間的な弱さについて自分との関わりで考えさせる。 | 26 |

| | | | |
|------------|---|--|---|
| <p>深める</p> | <p>(2) どうして明奈から「あなたも同じ」と言われてしまったのでしょうか。</p> <p>(3) 「あなたも同じ」と言われて、「私」は何を考えたでしょう。</p> <p>・そう簡単に自分の思いを伝えられるものではないでしょうか。</p> <p><テーマ発問></p> <p>(4) また自分もいじめられてしまうかも</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・明奈のところへ行かなかったことは、いじめているのと一緒だから。 ・結局、明奈に対して何も行動してないから。 ・唯一の味方だと思っていた「私」からも声をかけられなくなり、悲しかったから。 ・何で私が郁美と同じと言われなければいけないのか。 ・明奈のことを心配しているつもりだったのに、私も郁美たちと同じことをしてしまったのか。 ・私もいじめと同じことをしてしまっていた。それは許されない。 ・見て見ぬふりをするのもいじめているのと一緒。どうにかしなければ。 ・またいじめられるのはこわい。自分だったら、伝えられないかもしれない。 ・いじめられるのは怖いけれど、明奈のいじめをそのままにしておくことは許せない。 ・ここでいじめを止めないともっとエスカレートしてしまう。 ・自分の事よりも明奈の気持ちを一番に考えたから。 | <ul style="list-style-type: none"> ・始めは、進んで声をかけており、声をかけなくなってしまった今でも明奈のことを気にかけている「私」が、どうして「あなたも同じ」と言われてしまったのかを「明奈」の立場に立って多面的に考える。 <div data-bbox="933 481 1340 683" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>意図：いじめの被害者の立場に立って多面的に考えることで、傍観者も加害者と同じであるということについて考えを深める。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「頭の中で…言葉が何度も響いていた」「次の朝、私はひとりである明奈を見ていた」の部分から、次の朝までずっと考え続けていたことや、次の朝もひとりである明奈のことをずっと見ながら考えていたということに着目させる。 ・4人組での話合いを取り入れ、いじめを憎む気持ちや正義感だけでなく、いじめをとめようと行動することはそう簡単ではないことも、自分との関わりで考えさせる。 ・心の天秤を利用して、明奈へのいじめを何とかしようとする気持ちがどう変化したかを視覚化する。 <div data-bbox="933 1512 1340 1713" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>意図：いじめに立ち向かう気持ちと、そう簡単に行動を起こせない気持ちとで揺れ動く葛藤を考えさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして「私」は人間的な弱さを乗り越えてみんなに自分の思いを伝えることができた |
|------------|---|--|---|

| | | | | | |
|------------------|-----------------------|--|--|---|---|
| | | <p>しれないのに、どうしてみんなに自分の思いを伝えられたのでしょうか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・友達として、助けたいから。 ・このクラスからいじめをなくしたい、エスカレートさせたくないと強く思ったから。 ・周りに流されずに自分で考え自分の気持ちで動こうという気持ちや勇気が強くなったから。 | <p>のかを考えさせることで、正義を貫くために必要な心や考え方に気づかせていく。</p> <p>意図：公正、公平に行動し、正義を貫く難しさを乗り越えるには、どんな心や考え方が必要になるのか自分との関わりで考えを深める。</p> | |
| 見 つ め る | 4 | <p>今日の話合いを通して学んだ、差別をなくすために必要なことは何かを一人一人振り返る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・周りに流されずに相手のことをしっかりと考え行動することが大切だと感じた。 ・いじめを止めようとするのは、とても難しいけれど、見て見ぬふりをするのは絶対によくないから、いじめを止めるために自分に来ることを勇気をもってしていこうとする心が大切。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の話合いを通して学んだ「差別をなくすために必要な心や考え方」を振り返り書かせる。 <p>意図：差別や偏見をなくすために必要な心や考え方は何か、一人一人に見つめさせる。</p> <p>◇周囲に流されずに正義を貫く難しさと、それを乗り越えるために大切なことや必要な心についての考えを深めることができたか。(記述内容)</p> | 7 |
| 終 末 | あ た た め る | 5 | <p>教師の説話を聞く。</p> | <p>○「100%の悩みに対して100%の力で解決しようとしなくても、1%のやさしい心で100%の悩みは軽くなる」という「心の算数」の話をし、余韻をもたせて終える。</p> <p>◇正義を貫こうとする意欲や態度が育まれたか。(観察)</p> | 3 |

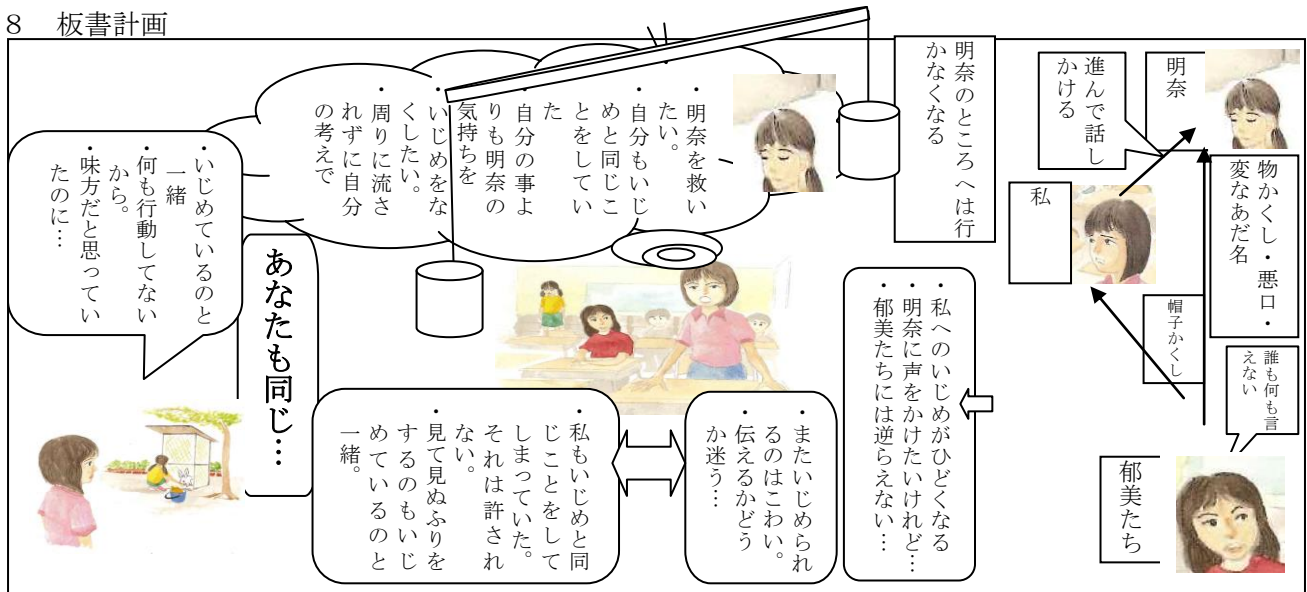
6 他の教育活動等との関連



7 評価の観点

- ◇ 話し合いを通して、周囲に流されずに正義を貫く難しさや、それを乗り越えるために大切なことや必要な心についての考えを深めることができたか。(観察・ワークシート)
- ◇ 正義を貫いていこうとする意欲や態度が育まれたか。(観察)

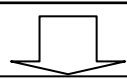
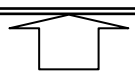
8 板書計画



9 教材分析表

ねらい：身近な偏見や差別に立ち向かっていく難しさや大切さについて理解し、正義の実現に向けて努力しようとする態度を養う。 内容項目[C公正、公平、社会正義]
 授業者の意図：いじめられている友達への思いやりや、いじめを許さない意志をもちながらも、いじめを止めることの難しさや、自分もいじめの被害者になってしまうと、相手への思いやりや不正を許さない気持ちよりも自分の立場を優先してしまう人間の弱さについて考えさせる。その上で、主人公は、そのような人間的な弱さを乗り越えて、どうしてクラスみんなに自分の思いを伝え、いじめがなくなるように行動できたのか考えることを通して、正義を貫き、いじめを許さない姿勢や言動をとろうとする態度を養いたい。

中心発問：また自分もいじめられてしまうかもしれないのに、どうしてみんなに自分の思いを伝えられたのでしょうか。
 意図：公正、公平に行動し、正義を貫こうとする難しさとともに、それを乗り越えるには、どんな心や考え方が必要になるのか、自分との関わりで考えを深める。
 価値理解 人間理解 他者理解



発問：「あなたも同じ」と言われて、「私」は何を考えたでしょうか。
 意図：いじめに立ち向かう気持ちと、そう簡単に行動を起こせない気持ちとで揺れ動く葛藤を考えさせる。
 価値理解 人間理解 他者理解

発問：今日の話合いを通して学んだ、差別をなくすために必要なことは何かを一人一人振り返る
 意図：差別や偏見をなくすために必要な心や考え方は何か、一人一人に見つめさせる。
 価値理解 自己理解



発問：どうして明奈から「あなたも同じ」と言われてしまったのだろうか。
 意図：いじめの被害者の立場に立って多面的に考えることで、傍観者も加害者と同じであるということについて考えを深める。
 価値理解 人間理解 他者理解



発問：「私」は、明奈に対して進んで声をかけていたのに、明菜のもとに行かなくなってしまったのはどうしてですか。
 意図：公正、公平に行動したいと思っても、自分に害が及ぶと、周囲に流され公平、公正な態度を貫けなくなってしまう人間的な弱さについて自分との関わりで考えさせる。
 人間理解